

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
訪問調査日	平成20年11月21日
評価確定日	平成20年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
所在地	237-0077 横須賀市浜見台2-14-1 (電話) 046-866-2836

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年11月21日
評価確定日	平成20年12月27日

【情報提供票より】(平成20年 9月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	22 人
利用定員数計	18 人
常勤 8 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 10.8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湘南病院、夏島医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは横須賀市北部追浜の高台の住宅地浜見台にある。横須賀市北部にはグループホームが少なく、地域の有識者が医療、保健、福祉のコミュニティ造りを目指してNPO法人やすらぎを立ち上げ、このグループホームを設立した。浜見台は国道16号線から少し入った静かな高級住宅地である。NPO法人のメンバー、職員、入居者殆どが地元の方であり、ホームの雰囲気も地元の空気と云う。医療の関係でも往診医の夏島医院は地元の開業医であり、利用者は入所の際に一緒にホームに往診に来てくれたことから往診医となって頂いた経過がある。ホームは坂の中腹にあるので、1階、2階の玄関がそれぞれ坂道に出られる構造で防災の場合、各々階段を使わず道にでられるので安全である。職員のスキルアップに取組み、①基本的職員の心得を作成・掲示、②居室担当制による介護計画原案の作成、③職員の担当制(行事、レクリエーション、お花、衛生)などにより、正職、パートを問わず、一緒に取り組む体制が出来、仕事の流れ、責任の明確化などが定着している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>この1年間はボランティアを活用し、利用者の気分転換を目標とした行事の充実に取り組んだ。行事の内容は所内行事と外出行事の両方である。所内行事としてはボランティアによる民謡やフラダンスなどのイベントの設定であり、外出行事ではボランティアの手助けを得て自家用車及び介護タクシーを利用したお花見などである。民謡などについてはホームに来て頂くケース、行政センターを利用し、利用者、職員が参加するものがあるが、ボランティアの活用で行事に幅が持てるようになり楽しんで頂いている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については「プロセスに於ける気付き →意見の尊重 →ミーティングでの話し合い」を前提として進めている。職員の意向・の吸い上げは幹部職員がヒアリングで収集しミーティングに反映させている。このフローにより結果をまとめ、職員に項目別に確認してもらうことで周知徹底を図るようにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は新横須賀方式で年4回は各ホーム毎の事業所会議、あと2回は今まで同様の横須賀方式による地域会議で推進すること決まり、推進している。横須賀方式は市が空室情報の提供、利用者の啓蒙、勉強会など利点も多かった。今後は独自の運営推進会議を如何に地域に広げ、交わりを大切にすることを考え推進して行くことが必要である。メンバーは老人会会長、民生委員を中心にご家族、ホーム関係者であり、横須賀市は民生委員が中心の事業所会議である。メンバーを通じ地域にグループホームそのものを知って頂く、特に中高年齢層に知っていた頂く為に老人会幹部の方との昼食会等を企画している。12/11には地域会議開催予定にしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は年1回開催している。堅苦しい家族会にならないよう、昨年は昼食会を兼ねて開催したところ好評だったので、今年も同じ様に開催することを考えている。家族会の目的として家族間及び家族と利用者の交流に狙いを置いている。今年の家族会は行事委員会が主体となって企画・実施をしてもらうことになっており、このことも1つの特徴となっている。ご家族は地元の方が多いため比較的良くホームを訪れてくれる。ご利用者の情報については、来訪時及び毎月のお手紙等でお知らせしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>学童保育の小学生が職員の関係で来てくれて、独楽や本の読み聞かせをしてくれている。地域の社協などの活用で民謡サークル、フラダンス、コーラスなどのボランティアが来てくれている。また、お散歩のコースの地元の方がご好意でお花やみかんなどくれたりしている。餅つき大会では自治会が臼・杵を貸してくれ、近所の人も加わる。近所の福祉タクシーとの相互協力体制が出来ている。その他では特養内にある居宅支援事業所、同じブロックの他の3つのグループホーム、病院の訪問看護事業所、地域の民生委員などとは協力出来る体制となっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域貢献を目的としたコミュニティ形成に力を尽くしていく事を理念に掲げている。地元出身の理事がほとんどの為、地域とのコミュニケーションが比較的円滑であり、設立の目的である医療、保健、福祉のコミュニティ造りを目指している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念を職場内に掲示し、常に意識できるよう働きかけている。職員全体で実現に向けて努力している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学童保育の児童達が合唱に来てくれたり、民謡サークルが唄と踊りを披露してくれたりと、地域との良い交流が出来ている。また、横須賀南部からフラダンスサークルが来てくれたりもしている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を消極的に捉えず、内部からでは普段気づきにくい点を気づかせてくれるいい機会と捉えるようにしている。良い評価、悪い評価共にこれからより良いホーム作りをしていく為の貴重な意見と考え、ミーティングで話し合っている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年までの横須賀方式に加え、今年度から事業所会議を行っており、家族代表、民生委員、地域の老人会会長が構成員になっている。今までホーム内の様子が地域の方に見えにくい状況であったが、事業所会議の手応えからも開かれた施設になってきている事が実感できる。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前年度市のグループホーム協議会の役員に就いていた関係で、長寿社会課とのコミュニケーションがうまくとれるようになった。市が行う研修などへの参加時や、書類等を提出する為立ち寄った際にも、意識的に意見交換するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所時にご挨拶だけでなく、普段の暮らしぶりを伝えるように心がけている。金銭出納は明細のコピーを渡すようにしており、新たにお小遣いを預かる際にお渡ししている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催し、意見・要望を聞き取る機会としている。家族との距離を縮める機会でもあるので、今後も開催していく。堅苦しい家族会にならないよう、昨年は昼食会を兼ねて開催したところ好評だったので、今年も同じ様に開催することを考えている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各居室に担当職員がいるが、職員には担当利用者だけでなく全利用者の情報を把握するよう働きかけている。離職等に伴う引き継ぎも綿密に行い、利用者の困惑が無いよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。外部研修で得た知識、経験を職場に反映してもらおう働きかけている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護タクシー事業所と相互協力できており、車いすの利用者などの通院時に非常に助かっている。近隣のグループホームとも情報交換を行っており、利用希望者の紹介なども出来ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が環境に適応できるかどうか、入居前の見学や体験入所で反応を見ている。入居後は出身地が近い方同士を近くの席にする等の工夫している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗濯などの家事や、花の水やりなど一人一人に出来ることを手伝っていただくようにしている。出来るだけ多くの利用者に「私にも出来るんだ」という思いを持っていただけるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者が発するサインを敏感に察知し、くみ取るように努力している。時には個別対応しながらケアしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの中に家族の意見を取り入れるように努めている。利用者の日々の様子、言動も職員からの意見として吸い上げ、利用者にとってどんな介護計画が望ましいのかを検討している。職員は居室担当制を取り介護計画原案を作成してもらいスキルアップを図っている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院中にADLが低下する方が多い為、退院後必要に応じてケアプランを見直している。また認知症の症状が進行していると思われる方についても適時見直しをしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物が2フロアに分かれている利点を生かし、介護上有効であると思える場合には、利用者と家族の意見を聞いた上でフロア間の転居を行うなどの支援をしている。1・2階にそれぞれ出入口がある為、車いすの方も散歩に行きやすい構造は良い。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により往診医を決めていただいている。入居前からのかかりつけ医師に往診してもらうケースも多い。数人の医師が往診に来てくれている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際にどこまでグループホームで対応するのが本人の為になるのか。その見極めは非常に難しいが、医師、家族との話し合いの中で決定していくべきだと考えている。手厚い医療が必要になると思われる方には、早い時期から特養申し込みをもらうなど、利用者への福祉サービスがとぎれることの無いよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必要時以外は記録簿を書類ケースに保管している。トイレ、お風呂への誘導の声かけにも気を配っている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の時間はある程度決まっているが、利用者の希望があればそれ以外の時間にも一緒に付き添いながら外出するなどの工夫をしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎食利用者に調理を手伝っていただいている。当番制にしており、出来るだけ多くの利用者に参加してもらうようにしている。また、焼きそばやお好み焼きなども随時メニューに加えており、ワイワイ楽しみながら調理していただける環境を作っている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴が基本だが、午前浴を行うことも多々ある。お風呂が好きな方は毎日入浴できるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「自分にもまだ出来るんだ」「自分が必要とされているんだ」という思いを出来るだけ多く感じてもらえればと、調理、掃除、園芸の手伝いをしている。散歩が好きな方が多く、ほぼ毎日出かける為、良い気分転換になっている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天以外は近所を散歩するようにしている。利用者の参加人数によって数回に分けて散歩しており、車いすの利用者も出かけている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動の制限をしなない為にも、職員による居室の施錠は一切行わない。利用者が平穩に過ごしている日や、職員全員が関われる時間帯は玄関にも施錠しないよう心がけている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署協力の下、防災訓練を行っている。建物オーナーの家が近いことや、近隣住民の理解が深まってきているので有事には協力要請できる体勢にある。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせてミキサー食や刻み食を作っている。自立摂取が難しい方は介助し、時には栄養補助剤を用い補完している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りカレンダーを掲示したり、以前来所した学童保育の児童からの手紙を掲示したりと、利用者同士の会話に発展しやすい物を掲示している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた家具類を持ち込んでいただき、自分らしい居室を作っていただいている。ソファを持ち込んでいる方などは好きなときに寝そべったりして過ごしている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的なかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	やすらぎの杜
(ユニット名)	1階 もみじ
所在地 (県・市町村名)	横須賀市浜見台2-14-1
記入者名 (管理者)	北澤 ゆう子
記入日	平成 20 年 10 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域貢献を目的としたコミュニティ形成に力を尽くしていく事を理念に掲げている。地元出身の理事がほとんどの為、地域とのコミュニケーションが比較的円滑に進めやすい。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念を職場内に掲示し、常に意識できるよう働きかけている。職員全体で実現に向けて努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時に法人理念、介護理念の説明をしている。家族が来所時に再度見ていただけるよう介護理念をホーム内にも掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日には近所を散策することが日課になっている。散歩中に声をかけてくださる方、お花を分けてくださったり、庭に招いてくださる方などが増えてきており、良い関係が築けてきている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学童保育の児童達が合唱に来てくれたり、民謡サークルが唄と踊りを披露してくれたり、地域との良い交流が出来ている。また、横須賀南部からフラダンスサークルが来てくれたりもしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>老人会会長と連携をとりながら、地域の高齢者の為に何が出来るかを考えている。施設と地域の橋渡し役となって協力していただいております、気軽に地元住民が立ち寄れる施設の実現を目指している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価を消極的に捉えず、内部からでは普段気づきにくい点を気づかせてくれるいい機会と捉えるようにしている。良い評価、悪い評価共にこれからより良いホーム作りをしていく為の貴重な意見と考え、ミーティングで話し合っている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前年までの横須賀方式に加え、今年度から事業所会議を行っており、家族代表、民生委員、地域の高齢者会長が構成員になっている。今までホーム内の様子が地域の方に見えるにくい状況であったが、事業所会議の手応えからも開かれた施設になってきている事が実感できる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>前年度市のグループホーム協議会の役員に就いていた関係で、長寿社会課とのコミュニケーションがうまくとれるようになった。市が行う研修などへの参加時や、書類等を提出する為立ち寄った際にも、意識的に意見交換するようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在1名の利用者に成年後見人がついている。後見人にも月に一度来所していただくようお願いし、日々の生活状況などを伝えている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が虐待防止法令の研修に参加している。職場に研修の内容を落とし込み、虐待の防止について話し合う機会を作っている。</p>		
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には細かく数条毎に質問・確認の時間を取るようにしており、利用者、家族が疑問無く利用開始できるように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置している。ホーム内に苦情受け付け担当者、市の長寿社会課、国保連合の連絡先を明示した物を掲示している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所時にご挨拶だけでなく、普段の暮らしぶりを伝えるように心がけている。金銭出納は明細のコピーを渡すようにしており、新たにお小遣いを預かる際にお渡ししている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を行い、意見・要望を聞き取る機会としている。家族との距離を縮める機会でもあるので、今後も開催していく。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月次ミーティングの際に、職員が意見要望を言える機会を作っている。また施設長・副施設長による個人面談も行っており、意見を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常の人員体制に加え、介護士の資格を持った施設長・副施設長がおり、管理者もシフトと別に現場を見渡すこともあるので、急な対応が必要になったときも柔軟な対応が出来る。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各居室に担当職員がいるが、職員には担当利用者だけでなく全利用者の情報を把握するよう働きかけている。離職等に伴う引き継ぎも綿密に行い、利用者の困惑が無いよう努めている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。外部研修で得た知識、経験を職場に落とし込んでもらうよう働きかけている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の介護タクシー事業所と相互協力できており、車いすの利用者などの通院時に非常に助かっている。近隣のグループホームとも情報交換を行っており、利用希望者の紹介なども出来ている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>施設長・副施設長による面談で職員の悩みや展望を聞くようにしている。会社主催の忘年会・食事会なども催し、ストレス発散できる場を作っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>一人一人の状況に合わせて評価するよう心がけている。パート職員で勤務歴の長い者、夜勤が出来る者には寸志を多めに渡したり、時給アップをしている。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>複数の職員による面談で多角的なヒアリングをするようにしている。出来る限り本人の希望を細かく聞き取るよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に複数回の面談を行うようにしている。家族の抱える悩み、心配事、利用者の体調面、生活のバックグラウンドなどをヒアリングし、ケアの方向性を話し合うようにしている。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その方にとってグループホームに入居することが本当に適当なのか、という視点を持ちながら相談を受けている。特に入院中の方は老健でリハビリを行った方が良いと思われるケースも多い為、そちらも検討してもらうよう勧めている。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が環境に適応できるかどうか、入居前の見学や体験入所で反応を見ている。入居後は出身地が近い方同士を近くの席にする等の工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗濯などの家事や、花の水やりなど一人一人に出来ることを手伝っていただくようにしている。出来るだけ多くの利用者に「私にも出来るんだ」という思いを持っていただけるよう支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院時は家族に付き添いをお願いすることも多い。月に1～2度のことではあるが、家族と外出すること、家族と会話することで利用者との関係が疎遠にならないよう働きかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や餅つき会などを開催し、家族と利用者が触れ合う機会を多く持てるように働きかけている。家族で過ごす食卓を演出し、双方の気持ちがより近づいてくれればと思っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外食に行くことで、見慣れた景色や環境に触れてもらえるようにしている。利用者の地元老人会の方も来所していただき、なじみの方との関係も継続できている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者の席を隣同士にしたり、並んでテレビを見ながら談笑できる場所を作ったりと、職員と利用者との関係だけでなく、利用者同士の良い関係作りが出来るよう働きかけている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居した方達の転居先へ定期的に訪問している。電話での聞き取りだけでなく、本人と顔を合わせながら様子を見させていただいている。家族とも良い関係が続いていることが多く、入居希望者を紹介して下さることもある。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者が発するサインを敏感に察知し、くみ取るように努力している。時には個別対応もしながらケアしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今までの生活歴、趣味嗜好などを記入するシートを、入居前に提出していただいている。また、入居後も職員が日々接する中で聞き取りしていくよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌とケース記録に日々の生活状況、行動を記録すると共に、日々の定時バイタル、時間毎の水分摂取量の記録をつけることで、心身状態の把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの中に家族の意見を取り入れるように努めている。利用者の日々の様子、言動も職員からの意見として吸い上げ、利用者にとってどんな介護計画が望ましいのかを検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院中にADLが低下する方が多い為、退院後必要に応じたケアプランを見直している。また認知症の症状が進行していると思われる方についても適時見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体的な記録である業務日誌と別に個人の生活状況をケース記録に記録している。また職員用の連絡ノートもあり、出勤時には目を通すように促し、出来る限り新鮮な情報を共有できるように心がけている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物が2フロアに分かれている利点を生かし、介護上有効であると思える場合には、利用者と家族の意見を聞いた上でフロア間の転居を行うなどの支援をしている。また、1・2階にそれぞれ出入口がある為、車いすの方も散歩に行きやすい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア体験学習の受け入れや、学童保育から読み聞かせに来てもらっている。民謡サークルやフラダンスサークルの訪問もあり地域ボランティアとの協働が実感できている。また防災だけでなく、利用者の緊急医療受診の際も消防に協力してもらっており、地域の施設と言うことで消防側も便宜を図ってくれている。		
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	車いす使用の利用者の通院時や大勢での外出行事の際に、地域の介護タクシー事業者に協力を要請している。		
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度適用を勧めていく中で、地域包括支援センターと協力できた。また、ご主人が当ホームに入居したことで、奥様が独居になってしまったケースがあるが、地域包括と密に連絡を取ることで、奥様の生活状況も把握できるよう、お互いに情報交換している。		
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により往診医を決めていただいている。入居前からのかかりつけ医師に往診してもらったケースも多い。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<input type="checkbox"/> 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい精神科医に往診を頼んでいる。利用者の問診が難しい分、職員からの情報が多いが、現状を伝え解決策を教示してもらっている。		
	<input type="checkbox"/> 看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護師がおり、医師に相談する前段階での対応に助力してもらっている。利用者の日常的な健康管理に大いに役立っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に職員がお見舞いに行くようにしている。家族にお願いして医師からの説明時に同席させてもらったり、看護師に日々の様子を教えてもらったりしながら利用者の変化に対応できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際にどこまでグループホームで対応するのが本人の為になるのか。その見極めは非常に難しいが、医師、家族との話し合いの中で決定していくべきだと考えている。手厚い医療が必要になると思われる方には、早い時期から特養申し込みをしてもらうなど、利用者への福祉サービスがとぎれることの無いよう努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	特に糖尿病の悪化が見込まれる方や、脳梗塞を頻発している利用者などの場合に、より医療と密接にある施設の方が本人の為になるのではないか、といった話し合いを医師、家族、職員間で行う事も多い。そういった方には早い時期から特養に申し込みをしておく等の準備もしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居に際して、出来るだけ自宅で使っていた家具を持ち込んでいただいたり、家族、ケアマネから情報を提供してもらい、なるべく早く馴染める環境を作るよう努力している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必要時以外は記録簿を書類ケースに保管している。トイレ、お風呂への誘導の声かけにも気を配っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ほぼ毎日散歩に出かけているが、買い物に行きたい方という方もいる為、希望を聞きながら対応している。買い物時には欲しい物を聞き取り、ご自分で購入できるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の時間はある程度決まっているが、利用者の希望があればそれ以外の時間にも一緒に付き添いながら外出するなどの工夫をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性が多い環境なので身だしなみには特に気をつけている。希望があればビューティーヘルパーに染髪をしてもらうこともあり、パーマもかけてくれる為、皆喜んでいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎食利用者に調理を手伝っていただいている。当番制にしており、出来るだけ多くの利用者に参加してもらうようにしている。また、焼きそばやお好み焼きなども随時メニューに加えており、ワイワイ楽しみながら調理していただける環境を作っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の時に好きな物を買ってもらったり、好みの物を聞き、出来るだけ希望に添うように食材を選んでいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活かし一人一人のパターンを把握し、その人に合わせたトイレ誘導をするようにしている。出来るだけ自分の力で排泄してもらえるようにしている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴が基本だが、午前浴を行うことも多々ある。お風呂が好きな方は毎日入浴できるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ある程度の目安はあるが、就寝・起床は利用者本人に任せている。起床が遅くなる方は食事時間をずらすなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「自分にもまだ出来るんだ」「自分が必要とされているんだ」という思いを出来るだけ多く感じてもらえればと、調理、掃除、園芸の手伝いをしていただいている。散歩が好きな方が多く、ほぼ毎日出かける為、良い気分転換になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時にご自分の好きな物が買えるようにお財布を持っていてもらい、会計時に支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天以外は近所を散歩するようにしている。利用者の参加人数によって数回に分けて散歩しており、車いすの利用者も出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方との外出機会をもってもらう為、通院時などにすぐに帰所せずにお食事をいただくように勧めたりしている。また、外出行事もある為、職員とも外出を楽しめるようにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合もある為、深夜早朝にはご遠慮いただくこともあるが、基本的に電話は自由に使っていただけるようにしている。帰宅願望が強く出たときなどは、家族と話していただくことで落ち着くこともある為、家族にも協力していただく。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	明るい挨拶で歓迎するように心がけている。家族が出来るだけ		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	け気軽に来所できるよう、悩みや心配事を聞き取ったりもしている。居室でゆっくり話す方、共有フロアで皆で話す方様々だが、職員からの生活状況報告も忘れずにするようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、行動制限廃止マニュアルを作り、職員に閲覧させている。利用者の生命を脅かす危険などの特殊な場合を除き、身体拘束をしないよう全員に徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動の制限をしない為にも、職員による居室の施錠は一切行わない。利用者が平穏に過ごしている日や、職員全員が関われる時間帯は玄関にも施錠しないよう心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者によっては居室で過ごす時間が多い方もいるが、お茶に誘ったりしながら様子を見に居室へ伺っている。前年水分不足の方が多くいた為、特に夏場は気をつけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針仕事が好きな方もいるが、安全の為職員が本数確認するなどご自身のしたいことと安全面でのバランスをとっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	多くの職員が消防署主催の救急救命講習に参加している。家庭で火の不始末が心配されていた方もいるが、台所仕事が好きなので職員が付き添いながら支援している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今後も消防署主催の救急救命講習への参加を継続していく。		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署協力の下、防災訓練を行っている。建物オーナーの家が近いことや、近隣住民の理解が深まってきているので有事には協力要請できる。		
72	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	主に居室内での転倒についてだが、契約時に家族への説明を行い理解を得ている。懸念されるリスクはあるが、のびのび暮らしてもらう為に利用者の行動制限をしたくない旨も、説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	昨年から全利用者の定時バイタルと時間毎の水分摂取量の記録を付けている。体調変化の早期発見に役立っているほか、往診医にも毎回確認いただき、健康管理に活用している。		
74	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬と過去に服用していた薬を、職員全員が確認しやすいように、全利用者の処方箋を一冊のファイルにまとめている。		
75	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表により毎日チェックしている。排便の無かった日数をカウントし、あまりに便秘が続くようなら大腸刺激剤などを使うようにしているが、薬だけに頼ったアプローチだけでなく、芋類のメニューを増やすなどの工夫もしている。		
76	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食時は夜勤者、昼食時は遅番の職員が中心となって行うなど、シフトの中で担当者を決め、そのスタッフが中心となり行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせてミキサー食や刻み食を作っている。自立摂取が難しい方は介助し、時には栄養補助剤を用い補完している。		
	〇感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	厚生省指導による感染症予防の資料を掲示しており、手指消毒剤、台所用消毒剤なども用意し衛生管理している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	契約したレストランから週2回な食材が届く。あまり買いだめをしない為、食材の鮮度は保たれている。また、台所用消毒剤も使用している為器具の衛生も保たれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	閉ざされた雰囲気のある暗い施設というイメージにならないように、玄関周りに草花を植えるなどして、明るい雰囲気を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りカレンダーを掲示したり、以前来所した学童保育の児童からの手紙を掲示したりと、利用者同士の会話に発展しやすい物を掲示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアの中に並んでテレビを見られる場所を作っている。気の合う利用者が会話しながらテレビ鑑賞しており、夕食後にも憩いの時間を持っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた家具類を持ち込んでいただき、自分らしい居室を作っていただいている。ソファを持ち込んでいる方などは好きなきに寝そべったりして過ごしている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>外気温との差が5度以内になるよう、こまめに空調を調節している。職員と利用者の体感温度の差に気をつけながら利用者が暑さや寒さを感じないよう、常に意識している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行が小刻みな方もいるが、歩行機能低下の防止の為、出来るだけ自力で歩行してもらっている。車いすを使っ てしまえば安全だが、まだまだ職員の見守りと介助で支援できる方なので出来るところまで頑張ってみようと思っている。だが夜間は安全の為トイレを使用するなどの工夫もしている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室にネームプレートを付けている。トイレにも張り紙をしており、ほとんどの方が張り紙を認識しながら生活できている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関周りに草花の花壇があり、毎朝の水やりや土いじりをしていただいている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、家族、職員の笑顔が絶えないグループホームを目指している。
やすらぎの杜では活気に溢れた空間の中で利用者・家族と付き合っていきたいと考えている。もちろん一人ひとりの時間を大切にす為にも静かな時間も必要だが、居室で一人で過ごす時間より、皆で共有する時間を多く提供したいと考えている。
ともすると介護現場では「危ないからしちやダメ!」「危ないから行っちゃダメ!」などの言葉が横行しやすいが、職員が関わり、共に行動し「一緒にやってみよう!」「一緒にやってみよう!」と利用者の訴えを生かしプラス方向に転じていきたいと思っている。時にわがままと思ってしまうがちな事も、その人の個性と捉え、自己表現できる良さと考えていきたい。人生の大先輩として利用者と接し、職員も生き方・老い方を学ばせていただく場であると考え、尊敬しあえる関係を築くことが笑いの絶えないグループホームへの第一歩だと考え、努めている。
またボランティアを受け入れ、ホーム内だけでは得られない楽しみや充実感を味わっていただけるよう働きかけている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

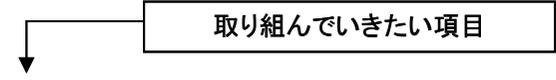
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	やすらぎの杜
(ユニット名)	2階 すみれ
所在地 (県・市町村名)	横須賀市浜見台2-14-1
記入者名 (管理者)	北澤 ゆう子
記入日	平成 20 年 10 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地区社協の元理事長や元連合町内会長、現職市議員など地元の有識者達が、福祉施設の少ない横須賀北郷地区の現状を憂い、地域貢献の為に開設した施設である。その為地域に強く目を向けた理念を持っており、医療、保険、福祉のコミュニティ形成を目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護現場における理念を掲げており、職場内に掲示し職員全員が実現に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時に家族に法人理念、介護理念を説明している。またホーム内の目に留まりやすい箇所に理念を掲示しており、来所した家族、地域の方々への理解が深まるよう努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と職員がほぼ毎日近所を散歩しており、その中で良好な関係が築けている。散歩中にお庭に招いてくださる方や、お花を分けてくださる方、励ましのお言葉をかけて下さる方等、開設当初に比べると地域の方々の暖かいエールを全身で感じる事ができるようになった。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前年からの目標であった老人会との交流がようやく形作られてきた。また、地元小学校や地元学童保育から、読み聞かせや合唱にきてくれることが増えてきており。民謡サークル、フラダンスサークルなども定期的に来所してくれるようになった。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者、特に独居老人などの情報弱者と思われる方々へ、福祉の情報発信基地的な役割を担っていきたく思っている。地域老人会会長に事業所会議構成員になっていただき、地域高齢者との窓口になっていただけるようお願いしている。		
---	--	---	--	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年外部評価結果を受け、運営者、管理者を中心にミーティングを行っている。反省点を真摯に受け止め、介護職員にまで落とし込むようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年までの横須賀方式に加え、今年度から事業所会議を行っており、家族代表、民生委員、地域の老人会会長が構成員になっている。今までホーム内の様子が地域の方に見えにくい状況であったが、事業所会議を通じて開かれた施設になってきている事が実感できる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前年度市のグループホーム協議会の役員に就いていた関係で、長寿社会課とのコミュニケーションがうまくとれるようになった。市が行う研修などへの参加時や、書類等を提出する為立ち寄った際にも、意識的に意見交換するようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者に成年後見人がついている。後見人にも月に一度来所していただくようお願いし、日々の生活状況などを伝えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が、虐待はあってはならないものであるとの認識を持っており、引き続き今後も虐待防止の心構えを徹底させていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容が多岐にわたっており項目も多い為、契約時には必ず数条毎に質問していただく時間を作っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置し、担当者、連絡先を事業所内に掲示している。大きな苦情はないが、利用者の意見要望はできる限り聞くようにしており、実績としてウオシュレット設置などが挙げられる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所時にはご挨拶だけでなく、普段の暮らしぶりをできる限り伝えるように心がけている。金銭については出納が分かるよう、預かり帳のコピーを渡すようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を聞く良い機会と捉え、定期的に家族会を開催している。利用者と家族、職員と家族の距離を縮めるチャンスでもある為、当ホームとしても重要なイベントと考えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月次ミーティングで職員の意見を聞き出す場を作っている。また不定期ではあるが、年に1～2回程度施設長・副施設長による面談を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常の人員シフトとは別に、ヘルパー資格を持った施設長、事務長がおり、通院介助や急な対応が必要な際も人員数を確保できる体制をとっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	居室担当を作り、より密接な関係を作るよう努力しているが、担当職員だけでなく、全職員が情報共有できるよう努めている。離職などに伴いやむを得ず担当を外れる場合も、綿密に引き継ぎを行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の良い介護を提供するには、職員のスキルアップは必須である為、パート職員にも職場内でのOJTだけでなく、外部研修に参加してもらっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に介護タクシー事業所があり、相互協力の体制ができている。また、グループホームが2事業所、認知症デイサービスが1事業所あり、折を見て訪問し情報交換している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不定期だが年に1～2回施設長・副施設長による面談を行い、その中で今後の展望や、日頃の悩みなどをヒアリングしている。また会社主催の忘年会などで、職員間の親睦を深めてもらえるよう働きかけている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人環境は異なるが、そこを理解した上で評価することを心がけている。また少ないながらも全パート職員にも寸志を出しており、勤続年数が長い職員や夜勤可能な職員には多めに支給し、モチベーションの向上を図っている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に複数の職員による面談を行うようにしている。多角的にヒアリングをし、出来る限り理解を深めるように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談での綿密なヒアリングを心がけている。複数回行うこともあり、今まで家族が抱えていた悩みなどを出来る限り話してもらえる機会を作っている。家族の負担、苦悩が少しでも軽くなるような声かけも出来るよう努力している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネからの紹介などの際には、話し合いの中でケアハウスを勧めるケースもある。グループホームでは難しいと思われる極度の重度者には特養を勧めるなど、本人にあっていられると思われるサービスを勧めるようにしている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に必ず入居者本人に見学に来ていただいている。雰囲気を感じていただき、必要であれば体験入所をしていただく。出身地、趣味、性別などを考慮し、馴染むきっかけが作りやすいよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や洗濯、料理等の家事の時間、花の水やり等の趣味の時間にも必ず利用者と共に、「自分もまだまだできるんだ」という気持ちをできるだけ多く持っていただくよう心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居したことで一旦は家族にも肩の力を抜いていただきたいが、通院時のお手伝いや週末の来訪などご家族にも極力関わっていただくように声をかけている。家族と利用者が疎遠になりすぎないようにしながら、その際に色々と相談を行うようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家庭で感じていた食卓の団らんを、利用者・家族にもう一度思い出していただきたいという思いから、年に一度家族会の中で昼食会を開いている。それぞれに事情もあるだろうが、家庭での介護によって関係がゆがんでしまう家族も多い現状の中、当ホームが関係改善のきっかけになり、家族の絆を取り戻してくれれば幸いだと思っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元出身の利用者が多い為、ドライブなどで見慣れた景色に触れていただいたり、近隣レストランで食事をしたり地域との繋がりを感じてもらえるよう工夫している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者の席を隣同士にしたり、並んでテレビを見ながら談笑できる場所を作ったりと、職員と利用者だけでなく、利用者同士の良い関係作りが出来るよう働きかけている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	有料老人ホーム、特養、ケアハウスなどへ転居した方がいるが、電話で状況を聞くだけでなく、定期的に訪問、お見舞いもするようにしている。退居したご家族が、新規の利用希望者を紹介してくれたり良い関係が続いている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の発するサインを出来る限りくみ取れるよう努めている。利用者からの多様な要求に対しては個別ケアしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のバックグラウンドを聞き取る用紙を基に、入居時に聞き取りを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌、ケース記録に日々の生活状況、行動を記録すると共に、日々の定時バイタル、時間毎の水分摂取量の記録をつけることで、心身の把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見、要望は出来る限りケアプランに組み込むようにしている。日々本人の思いをくみ取るようにしながら、職員間で支援の為の意見やアイデアを出し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院によってADLが著しく低下する方が多く、そういった方には退院後カンファレンスを行った上で計画の見直しをしている。また、認知症状の進行が見られる方に対しても同様である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体的な記録である業務日誌と別に個人の生活状況をケース記録に記録している。出勤時には目を通すように促し、出来る限り新鮮な情報を共有できるよう心がけている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物が2フロアに分かれている利点を生かし、介護上有効であると思える場合には、利用者と家族の意見を聞いた上でフロア間の転居を行うなどの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の学童保育から読み聞かせに来てもらったり、フラダンスサークル、民謡サークルのボランティアなどの娯楽面と、防災における消防等の安全面での協働が出来る。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	車いすの利用者の通院、大勢の利用者で地域行事へ参加する際など、近隣の介護タクシーと連携し、安全に移動できるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度適用を勧めていく中で、地域包括支援センターと協力できた。また、ご主人が当ホームに入居したことで、奥様が独居になってしまったケースがあるが、地域包括と密に連絡を取ることで、奥様の生活状況も把握できるよう、お互いに情報交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望により、当ホーム提携医師以外の往診医に依頼することもある。地元出身の利用者が多いため、入所前からのかかりつけ医に引き続き往診していただくケースも多い。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市内のグループホームでも評判の良いメンタルクリニックに往診をお願いしている。精神科医だが認知症に詳しく、よく相談に乗っていただけるので助かっている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現職員に看護師資格を持つものがおり、支援を行っている。主治医に相談する前段階として、意見を聞くことも多く利用者の体調管理に役立っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にも、職員の訪問は定期的に行うように心がけている。担当医師、看護師にもできる限り時間をもらい話を聞けるようアプローチし、入院中の状態などについて情報を得られるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の場合にどこまでグループホームで対応できるのか、またグループホームで対応することが本当に利用者の為になるのか、といった事はスタッフ間で日常的に話し合っている。今後医療と密接な施設の方が望ましくなってくるのではないかとされる利用者の家族には、早い時期からの特養申し込みを勧めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	特に糖尿病の悪化が見込まれる方や、脳梗塞を頻発している利用者などの場合に、より医療と密接にある施設の方が本人の為になるのではないかと、といった話し合いを医師、家族、職員間で行う事も多い。早い時期から特養に申し込みをしておく等の準備もしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時に家族、ケアマネから普段の生活状況を細かく聞くようにしている。また、出来る限りご自宅で使っていた家具を持ち込んでいただき、少しでも馴染みやすい環境が出来るよう家族にも協力してもらっている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録書類は書類棚に保管し、必要時に取り出すようにしている。介助が必要な利用者へのトイレ誘導の声かけにも注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々のレクや散歩、買い物などの際は利用者に希望を聞くようにしている。散歩と買い物の時間が重なる時は、どちらに行きたいか。買い物に行かれた方には何が買いたいかな等を聞き、自身で判断していただいている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の時間はある程度決まっているが、利用者の希望があればそれ以外の時間にも一緒に付き添いながら外出するなどの工夫をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を聞くようにしているが、定期的にビューティーヘルパーが訪問してくれ、パーマ、染髪もしてくれる為、そちらで満足している方が多い。行きつけの美容院を希望する方には、家族と協力しながら通えるよう支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	焼きそばやお好み焼きなど皆で調理できるメニューで参加を促したり、日々の調理の際にも下ごしらえなど出来ることを手伝っていただけるようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	フルーツ類がおやつの中には、利用者の好みを聞き取りあわせるようにしている。また、買い物の時に好きな物を買ってもらえるよう支援している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を基に一人一人の排泄パターンを把握するように心がけている。折を見てトイレ誘導をしながら、出来るだけおむつを使わないよう努めている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後から入浴が始まるが、状況により午前浴を行ったり、希望者は毎日入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝、起床は一人一人にあわせた物にしている。起床が遅くなる方もいるが、食事工夫しながら対応している。夜間に共有フロアでテレビ鑑賞する方には他者の安眠の為、音量を絞っていただくことも促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「自分にもまだ出来るんだ」「自分が必要とされているんだ」という思いを出来るだけ多く感じていただく為に、調理、掃除、園芸の手伝いをしていただいている。散歩が好きな方が多いので良い気分転換になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行くときに、自分のお財布をもって好きな物を買えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の悪い日以外はほぼ毎日散歩に出かけている。車いすの方にも良い気分転換になっている。希望によって買い物に行く方もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食に出かけたり、植物園や足湯温泉へ行ったりするなど、職員と出かけることも多い。また家族に通院付き添いを兼ねて外食をしていただくように勧めたりもしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合次第ではあるが、普段から電話は自由にかけていただくようにしている。帰宅願望が強く出たときなども電話で落ち着くこともあるので、状況によってご家族に電話をお願いすることもある。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来所してもらえるよう、明るい挨拶と会話を心がけている。お茶だししながら普段の様子を伝えたり、居室でゆっくり過ごしていただけるような声かけをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、行動制限廃止マニュアルを作り職員に閲覧させている。利用者の生命を脅かす危険などの特殊な場合を除き、身体拘束をしないよう全員に徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動の制限をしない為にも、職員による居室の施錠は一切行わない。利用者が平穏に過ごしている日や、職員全員が関われる時間帯は玄関にも施錠しないよう心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	車いすの利用者が自走していることが多いが、他者との接触など安全面で最大限注意している。また居室で過ごす時間が長い方もいるが、お茶に誘ったりこまめに様子をうかがうようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針仕事が好きな方もいるが、安全の為職員が本数確認するなどご自身のしたいことと安全面でのバランスをとっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の多くが消防署主催の救急救命講習に参加している。家庭で火の始末に不安のあった方も、職員付き添いで台所に入ることで安全配慮している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の多くが消防署主催の救急救命講習に参加しており、今後も参加を継続していく。		
	○災害対策	消防署主催の消防訓練を行っている。また建物内		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者に依頼して消防訓練を行つている。また建物オーナーが近所に住んでいることや、地域住民の当ホームへの理解が深まっている為、災害時には協力が得られるはずである。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に家族に起こりうる危険について説明をしている。主な例が居室内での転倒だが、ある程度利用者の自由な行動を優先すると、完全に目が行き届かないことも説明し、納得した上で入居していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	昨年より全利用者の定時バイタル、一日の水分摂取量を記録する表を作成し、活用している為、体調変化にいち早く気づけるようになってきている。結果的に昨年冬、今年の夏共に風邪を引く方がおらず、成果に結び付いている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作っている。各利用者の最新処方箋が一覧できるようにしており、職員にもこまめに目を通すよう促している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表により毎日チェックしている。排便の無かった日数をカウントし、あまりに便秘が続くようなら大腸刺激剤などを使うようにしているが、芋類のメニューを増やすなどの工夫もしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食時は夜勤者、昼食時は遅番の職員が中心となって行うなど、シフトの中で担当者を決め、そのスタッフが中心となり行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの嚥下状態に合わせてミキサー食、刻み食を取り入れており、自立摂取の難しい方は介助している。また全利用者の水分摂取量を時間毎に記録している。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	厚生省指導による感染症予防の資料を掲示しており、手指消毒剤、台所用消毒剤なども用意し衛生管理している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	契約したレストランから週2回な食材が届く。あまり買いだめをしない為、食材の鮮度は保たれている。また、台所用消毒剤も使用している為器具の衛生も保たれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに草花を植え、明るい雰囲気を作るようにしている。天気の良い日は出来るだけドアを開け、閉ざされた施設に見えないよう心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手による季節感ある手作りカレンダーや、習字など利用者の目に留まり会話に繋がりやすい物を掲示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを一人でゆっくり見てもらえるよう共有フロアにソファ、座椅子を置いている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具を持ち込んでいただくようにしている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>職員と利用者では体感温度が異なる為、空調の効きすぎには気をつけるようにしている。外気温との差が5度以内を目安にこまめに換気するようにしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>伝い歩きの出来る方は歩行も見守りに対応し、自立を促している。その中でも転倒の危険のある方は夜間トイレを使用するなど個々に合わせた支援をしている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室入り口にネームプレートを付けている。トイレにも案内表示をしており、手洗い推奨の張り紙も認識できる方がいる。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関周りやベランダに草花を植え、土いじり、毎朝の水やりをしていただいている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、家族、職員の笑顔が絶えないグループホームを目指している。
やすらぎの杜では活気に溢れた空間の中で利用者・家族と付き合っていきたいと考えている。もちろん一人ひとりの時間を大切にすることも静かな時間も必要だが、居室で一人で過ごす時間より、皆で共有する時間を多く提供したいと考えている。
ともすると介護現場では「危ないからしちやダメ!」「危ないから行っちゃダメ!」などの言葉が横行しやすいが、職員が関わり、共に行動し「一緒にやってみよう!」「一緒にやってみよう!」と利用者の訴えを生かしプラス方向に転じていきたいと思っている。時にわがままと思ってしまうがちな事も、その人の個性と捉え、自己表現できる良さと考えていきたい。人生の大先輩として利用者と接し、職員も生き方・老い方を学ばせていただく場であると考え、尊敬しあえる関係を築くことが笑いの絶えないグループホームへの第一歩だと考え、努めている。
またボランティアを受け入れ、ホーム内だけでは得られない楽しみや充実感を味わっていただけるよう働きかけている。